北海道労働文化協会・リレー講座　番外編

＜シンポジウム＞

福島の教訓を胸に

安心のエネルギーと平和をめざして

ードイツ・北欧の政策に学ぶー

日時：2012年7月27日㈮ 18:00～20:30
場所：北海道自治労会館 4Fホール
札幌市中央区北6西7 東向き

基調講演

ドイツ・デンマークは原発依存をやめた

北海道大学大学院経済学研究科教授
吉田　文和 氏

吉田文和氏は永い学究生活の最初から、近代的な産業技術と環境破壊の関係に着目し、公害を告発し、人類の生存基盤を護る産業技術の必要を学術的に提起し続けてこられました。省エネと再生可能エネルギーで原発分の電力は十分まかなえるのだと、熱く語っておられます。近著に『脱原発時代の北海道』（北海道新聞社）があります。

報告

3.11の前も後も 廃炉をめざして

ハイロアクション福島原発40年実行委員会
大賀あや子 氏（予定）

福島第1原発が運転開始から2011.3.26で寿命といわれる40年を迎えるのを機に廃炉を実現するとともに、希望ある「ポスト原発社会」をめざして前年11月から、脱原発スピーチを世界に拡げる武藤類子さんらと活動を展開。原発事故後の今も避難先から原子力政策の抜本的見直しを訴え続けています。

討論

問題提起及び司会
詩人・北星学園大名誉教授
矢口　以文 氏

矢口以文氏は英文学者で反戦詩人。幌延に核廃棄物の最終処分場を作ろうとする動きがはじまった際に、反対運動の一環として『1986年幌延詩集』『随想集幌延1986』の編集者を務められ、幌延に「研究施設である」とのしばりをかけることに貢献されました。今回の福島原発事故に際しても、詩集を編集し、その英訳版を海外に広めようとされています。近著に『詩ではないかも知れないが、どうしても言っておきたいこと』（コールサック社）があります。

参加費　500円（当日会場で）

主催：(社)北海道労働文化協会　／　共催：(財)北海道自治労会館

お問い合わせ　011-261-0020